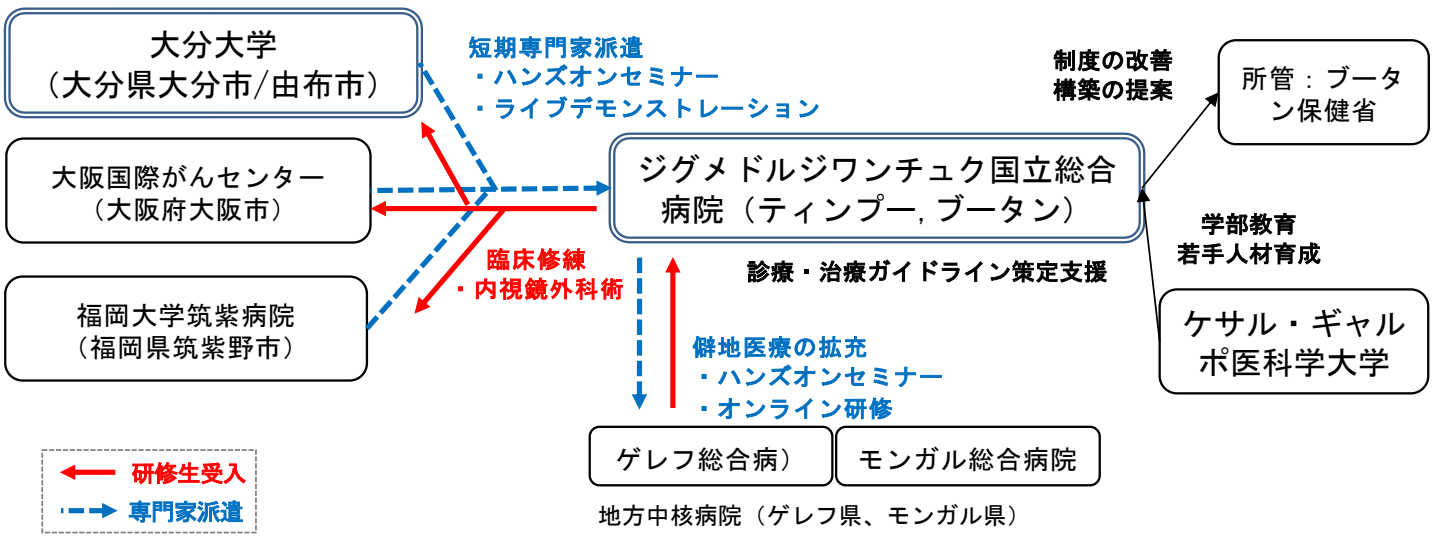
案件概要のまとめ （日本語版）　　作成日：令和8年4月24日　【別添１】

# ブータン王国における狭帯域光観察併用拡大内視鏡（M-NBI）および内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）による実地研修を通じた早期胃癌診断・治療体制の臨床実装　３年計画の１年目

**1. 案件目的**：白色光通常観察（SSS）および狭帯域光観察併用拡大内視鏡（M-NBI）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の実地研修を通じ、ブータンに早期胃癌の診断・治療体制を臨床実装し、持続可能な運用を確立する。早期発見率の向上と外科依存の低減を目指す。
**2. 案件の概要**：大分大学が中核となり、大阪国際がんセンター・福岡大学筑紫病院と連携し、ブータン保健省、KGUMSB、JDWNRH等と協働する。日本での研修生受入と、現地でのハンズオン／ライブデモ、専門家派遣、オンライン症例検討を組み合わせ、SSS→M-NBI診断→ESDまでの臨床プロセス（画像読影、適応判断、合併症管理）を標準化しつつ段階的に定着させる。
**3. 案件の成果、着地点**：独立してESDを実施できる専門医を3名以上育成し、早期胃癌の発見・低侵襲治療を3拠点で定着させる。標準プロトコルを整備して国家ガイドラインへ反映し、基幹病院から地方へ展開可能な体制を確立する。TTT（Train-the-Trainer）により現地トレーナーを育成し、自走できる教育・症例レビュー体制を構築する。




## ＜研修スケジュール予定＞

**短期研修生受入（3名×2週間）［9月、12月、2月］**
・臨床実地研修／症例検討会
・内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）技術指導
・拡大内視鏡（M-NBI）を用いた画像解析トレーニング
・日本の診断・治療プロトコルの習得（SSS、M-NBI、ESD）

**短期専門家派遣（2-3名×5日間×3回）9月、10月、1月］**
・ハンズオンセミナー／ライブデモンストレーション
・SSS・M-NBI診断およびESD手技の指導（適応判断・合併症対応を含む）

**短期専門家派遣（1名×2週間×3回）［7～12月］**
・消化器内視鏡診断・治療の実装支援（標準手順の定着）
・SSS・M-NBI診断、ESDの段階的導入（症例レビュー、指標モニタリング）

**オンライン研修（6名×3回）［8月、11月、2月］**
・症例提示／画像レビュー（M-NBI）
・ESD適応判断・治療計画・合併症対応・術後評価のレビュー